

静岡県立大学との連携・協働による「探究学習の充実」を核として

主体的に学ぶ生徒を育てる富士東高校

－アカデミック・ハイスクール※取組報告－

富士東高校のスクール・ミッション

大学との連携・協働による探究学習の充実を図るカリキュラム研究を核とした、地域から信頼される文武両道の富士地区普通科高校として、社会的な課題に関心を持ち自律的なキャリアデザインを描きながら自ら進んで学ぶ力を育む教育を通して、地域社会の発展を担い、リーダーとして活躍する人材の育成を目指す。

取組のイメージ

入学

自立したキャリアプランナーの育成

卒業

生徒自身による課題設定を重視

「しののめ探究」における課題解決的な探究学習を通じた将来のビジョンの明確化

全ての教科で自ら学ぶ力を育成

各教科における授業研究（学習指導と学習評価の一体的な充実）

探究学習の充実を通して期待される生徒の姿

- ▶ 急激に変化する時代の流れと社会情勢及び直面している課題について理解し、社会課題に関心をもつことにより、キャリアデザインを描けるようになる。
- ▶ 具体的な知識の獲得とともに、自らの将来を展望し、現在の学びの意味や価値を理解できるようになる。
- ▶ 知識獲得の過程で思考力を発揮し、主体的に学習に取り組むようになる。

「しののめ探究」（総合的な探究の時間）の特色

静岡県立大学との連携・協働



大学教員による
「探究の進め方」講座



大学教員によるグループ
探究への専門指導



学部生・院生からの支援

学年部職員による
SDGsにつながる分野別講義



思考ツールを活用して
考えるスキルを磨く



プレゼンスキルトレーニング
による表現力↑↑↑



詳細は中面に！

※3年間(令和3～5年度)の研究指定 富士東高校は、静岡県教育委員会「新時代を拓く高校教育推進事業」において、普通科改革を進める「オンリーワン・ハイスクールI類（アカデミック・ハイスクール）」の指定を受けています。

令和3年度「しのものめ探究」(総合的な探究の時間)の歩み

2年生

- ① 貧困・飢餓
- ② 健康と福祉
- ③ 教育
- ④ ジェンダー平等
- ⑤ 不平等・平和と公正
- ⑥ 経済成長・産業技術革新
- ⑦ まちづくり
- ⑧ 安全な水とトイレ
- ⑨ エネルギー
- ⑩ 海の豊かさ
- ⑪ 気候変動・陸の豊かさ

SDGsを学ぶ

- ① 全体講義 (金沢工業大学教授)
- ② 分野別講義 (学年部職員)



5.6 5.25 6.15

7.6

「問い」を立てる

講義を受け、探究テーマについてブレインストーミング



「探究の進め方」を学ぶ

9.21 静岡県立大学食品栄養科学部 谷晃 教授

「問い」の見直し&情報の収集⇔整理・分析



講義を受けて、探究グループごと、1学期に立てた問いを見直しました。整理・分析した情報を基に結論を導き出します。

静岡県立大学学部生・院生からの支援



①~⑪各分野に1~2人のアドバイザーが探究をサポート

10.5 10.19

まちづくり

富士市は災害対策として何をすべきか？
- 災害による地域コミュニティの崩壊を防ぐには -



12.14▶2.15

大村 温輝 (吉原一中)
一条 涼仁 (鷹岡中)
小野 瑛登 (大淵中)
柳平 拓磨 (須津中)

課題設定の理由

今日の防災(避難)訓練の中身が薄い・不十分だと感じたからである。具体的に例を上げると、学校では、机の中に隠れてから校庭に避難して終了だったり、地域ではそもそも実施されなかったり、参加率が低かったりする。このような事態を打開するために、「防災に関する改革をする」という結論を立て、探究した。

課題解決のプロセス・考察

どのようなことをするかには、2つの案がある。
1点目は「逃げ地図」の作成である。逃げ地図とは、災害時の避難経路を色鉛筆で書き込んだ地図のことである。逃げ地図が必要な理由は、津波が最短3分で富士市に到達するからである。神奈川県平塚市では最短6分で津波が到達するという想定が出され、沿岸に近い地区では諦めの声が出たが、逃げ地図を作成したことで住民たちからも前向きな意見が出た。富士市でも逃げ地図を作成すれば津波避難に対して前向きな意見が出ると思う。
2点目は、防災教育を新しくし、過去の災害について学ぶことである。和歌山県印南町の印南中学校では、古文書などの読み取りをするという活動も行っている。このような活動を富士市でも取り入れ、小中学生の頃から防災に意識を持つことが大事だと思う。

振り返り

今回このような探究活動をするにあたって、インターネットを活用し様々な情報を比較した。その中で地域の取組を重点に置いて発表の準備をした。この探究活動を通して新しい防災のことを学んだ。特に逃げ地図は初めて聞き、新しい防災の知識となった。



課題の設定

情報の収集

整理・分析

まとめ・表現 (代表グループの例)

- ① 生活・社会
- ② 環境
- ③ 国際問題・異文化理解
- ④ 日本語・日本人
- ⑤ 教育
- ⑥ 福祉
- ⑦ 政治・経済
- ⑧ 情報・メディア
- ⑨ 科学技術
- ⑩ 医療・看護

問いを練り直す

「仮説→情報収集→問いの修正」でブラッシュアップ



静岡県立大学学部生・院生からの支援

【アドバイザーの役割】
・大学における学び(研究内容等)や社会活動を紹介する。
・生徒が進める探究活動の過程で、生徒が設定した課題の解決策や、収集した情報の整理・分析方法などについて生徒とともに考えたり、グループ発表への助言をしたりする。



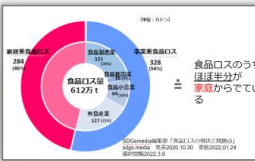
11.9 12.7 12.14 1.18 3.10

生活・社会

食品に関する様々な「もったいない！」を減らすにはどのようにすればよいのだろうか？

課題設定の理由

食品ロス問題が深刻になってきている中で自分たちの身近なところでも起こっており、他人事ではないことを知ったから。



課題解決のプロセス・考察

小さな努力で食品ロスを少しでも減らすことができる、しかしその小さな努力は実行し難いため企業と私達が協力していく必要がある。そして私達の食品ロスに対する関心が少ない問題を見つけた。関心を持つ人が少ないのでどうやったら関心を持つ人が増えるのか考え、実行する必要がある。

大学教員によるグループ探究への専門指導

「カーボンニュートラルや、地球温暖化と酸性雨の因果についてさらに調べると、考察に深みが増しますね。」

片平 由莉 (元吉原中)
椿 美海 (岩松中)
戸塚 陽菜 (吉原北中)
松山 正広 (岩松中)

福祉

知的障がいのある無に関係なくお互いを認め合うためには？
～東高みんなで出来ること～

課題設定の理由

令和5年度に東高の敷地内に富士特別支援学校富士東分校が開校することを全員に知ってもらいたいと思ったから。

課題解決のプロセス・考察

- ・障がいを持っていても特別扱いせず普通に接することが大切。
- ・東高は障がいのある人もない人も互いを理解し、共生社会の実現を目指している。
- ・障がいのある生徒たちと接することで生徒や教職員が優しい感性を身に付けることができる。
- ・昼食時間の交流、学校行事を合同で行うなどして積極的に関わる。
- ・校内の分かりやすい地図の作成など、環境を整える。

インクルーシブ教育ってなに??

障がいのある無によって学ぶ場所を分けず一人ひとりが多様であることを認め共に学ぶ環境を整えること

齊藤 真央 (鷹岡中)
小林 謙真 (大淵中)
久保田かりん (岩松中)
松野 智優 (吉原二中)

12.14▶2.8▶3.10

1年生

学年部職員による分野別講義 → 「開いた問い」を立ててみる

分野別ミニ講義を聞いた後、答えがひとつに定まらない「開いた問い」を立ててみました。

【科学技術】再生可能エネルギーと火力発電では、どちらの利点をとるべきなのか？

【異文化理解】グローバル化によって増えた外国人により日本人の仕事が奪われないか？

【生徒が立てた「問い」の例】

6.15~7.19

思考ツールを活用して考えるスキルを磨く

知識や情報等を様々な側面からとらえ、整理・分析する技術を磨く体験をしました。



9.21



プレゼンスキルトレーニングによる表現力

効果的なプレゼンの手法(プレゼンとは何か、伝えたい主張のまとめ方、効果的な伝え方)を学びました。



1.11



「しののめ探究」1年目の成果

生徒の声を
集めました♪

探究活動を通して、自分にはどのような力が付いたと思いますか？

情報を整理する

集めた様々な情報を、詰め込みすぎず、本当に必要な情報とそうでない情報とに区別し、取捨選択できるようになった。

情報を基に深く考える

自分の考えの豊かさが増した。自分の意見が相手の意見とは全く違うこともあり、多様な考えがあるのだと身をもって知った。

自分の考えを伝える

探究活動にはコミュニケーションは必須で、自分の意見を言う勇氣が必要。それが活動の進行、質にも関わってくる。

分かりやすくまとめる

集めた情報や考察を分かりやすく変換し、聞き手にとって見やすく興味を持ってもらえるプレゼンテーションを工夫した。

探究活動を通してどのようなことを学びましたか？

- どんな問題も気づかないだけで本当はすべてが身近にあるものだと思います。知らないことを知ろうとすることが探究の第一歩になると思います。
- 自分たちが知っている知識だけでは不十分だから、探究で深掘りすることで世界をもっと知ることができます。
- 探究すると、また新しい考えが違うところから生まれるということです。自分にはない考え方に触れて驚くこともありました。
- 世の中に散らばっている情報をかき集めるまでは誰でもできる作業ですが、それらを踏まえた上で、自分で考えて答えを導き出していくことが大切だと学びました。
- 調べたことのみを発表するのではなく、そこから自分たちはどのように考えて、それをどのように解決するのかというところまでが本当の探究活動。主体性とはそのような意味なのではないかなと改めて感じました。
- 1つの問いに対してより深く考えて、質の高い問いの答えを導き出すこと、問いを解決するために、現状から調べ意見を出し合いながら、解決策を細分化していく過程がすごく大事だなと思いました。社会に出たときのプレゼンの機会の予行演習だと考えると、すごく良い経験だと思います。
- 自分が知りたいと思ったことについて自ら現場に出向き、主体的に学ぼうという姿勢を持つことが重要だと思います。探究したことをいかにして聞き手が分かりやすいようにプレゼンするかということも大切です。

- 仲間とひとつのことを追究し、完成させることのやりがいを感じました。
- 自分だけで考えるのではなく、班員の他の視点からの考えを取り入れることによって自分の意見もより発展して行くのだと知りました。
- 初めて話す人と活動するので、社会に出て他人と協働する時の練習になりました。
- 相手の意見を尊重し、自分の意見も混ぜながら考えることの大変さが分かりました。
- 発表をする力がないと痛い程知りました。いくら準備しようと、緊張してしまって上手く出来なくては意味がありません。場数を踏もうと思います。

探究活動をしていて楽しいと思ったことは？

自分の考えていることを相手に伝えることと、それを相手に納得してもらうこと

チーム全員で悩みながら試行錯誤して考えること

班員と自分で違う視点から調べていく中で結論が一致した瞬間！

一人ひとりが違った視点から調べ、それを互いに意見交換しながら結び合わせていく話し合いには価値がある



調べたことの点と点が繋がって説得力を持たせることができること

新たな知識が得られること

問いを解決するにつれて出てくる新たな壁を乗り越えて答えを立てられた時の達成感！

誰かと一緒に一つの発表を作り上げていくこと自体！

